

## 男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

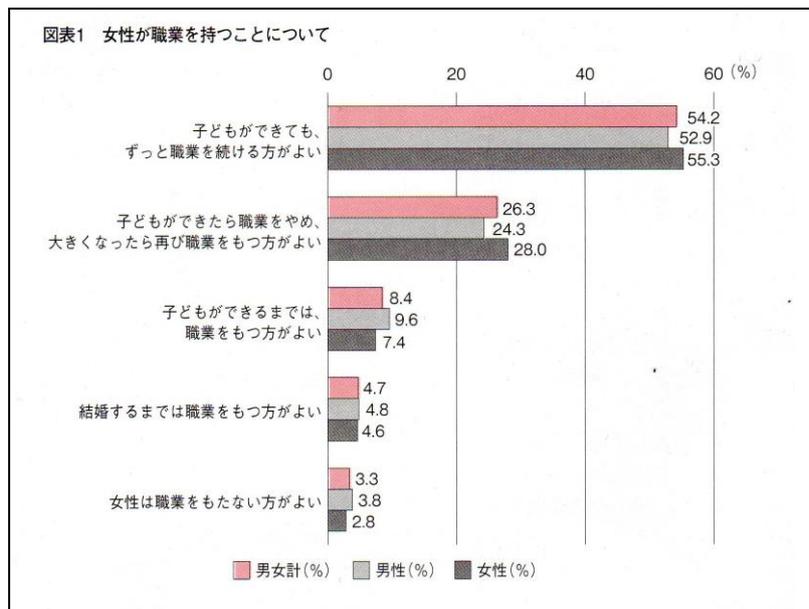
Q28 平成28年4月1日から「女性活躍推進法」が全面実施されたことを受けて世論調査をされた、その結果について紹介して頂きたい。

A28 これまでの調査との大きな違いは、28年度の世論調査から、対象が20歳以上から「18歳以上に引き下げられたことです。」なお、今回調査は標本数5,000人に対し、有効回収数3,059人(61.2%)でした。うち男性1,404人(45.9%)、女性1,655人(54.1%)でした。

- (1) 一般に女性が職業をもつことについての考え方を問う質問では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」といういわゆる就業継続を支持する回答が54.2%と最も多く、次いで「子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(26.3%)となっています。

男女別にみても、男性が52.9%、女性が55.3%となり、全体の数値でも、男女別の数値でも揃って50%を超えたことは初めてです。

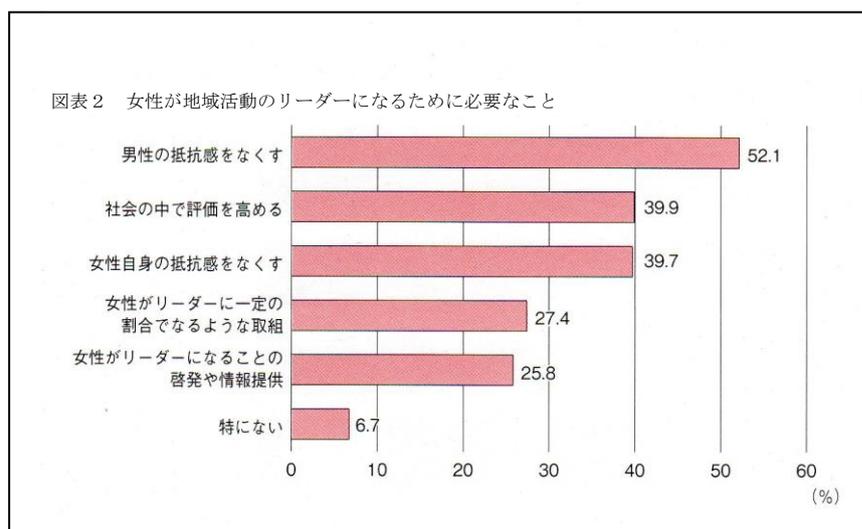
時系列的にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」との考え方は、これまで増加傾向にあり、24年調査では47.5%でしたが、26年調査では44.8%と減少しました。今回は大きく数値を回復しました。こうした結果は、女性が職業をもつことを肯定的にとらえる考え方が、男性も含めて、より一般的になったことによるものではないかと考えられます。(図表1)



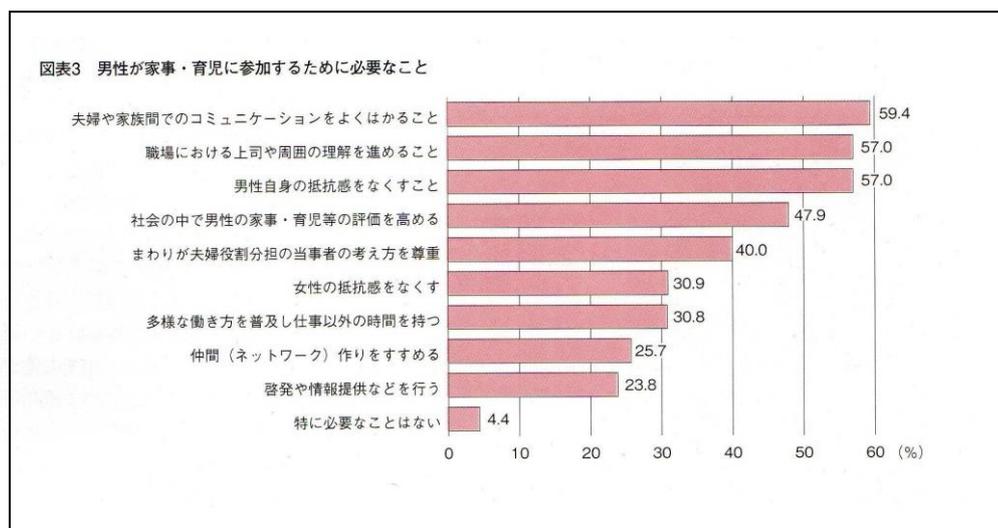
(2) 女性が地域活動のリーダーになるためには今回調査では初めての設問もありました。

その一つ、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思うかを問う質問では(複数回答)、「男性の抵抗感をなくすこと」(52.1%)との回答が最も多く、次いで「社会の中で女性がリーダーになることについてその評価を高めること」(39.9%)、「女性自身の抵抗感をなくすこと」(39.7%)等となっています。

「男性の抵抗感をなくすこと」の回答を男女別にみると、男性が54.1%、女性が50.5%という結果でした。(図表2)



(3) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要と思うかを問う質問では（複数回答）、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」（59.4%）との回答が最も多く、次いで「職場における上司や周囲の理解を進めること」（57.0%）、「男性自身の抵抗感をなくすこと」（57.0%）となっています。（図表3）



今回の調査では、女性が職業をもつことを肯定的にとらえる考え方が、男性も含めて、より一般的になったように思われます。